

平成27年度 弘前大学グローバル人材育成事業 学生海外PBLプログラム報告書

申請者	所属部局・職名	教育学部・教授
	氏名	野呂徳治
事業名	メイン大学異文化コミュニケーション集中講座	

事業の概要とその成果

【派遣者(指導教員, 参加学生)】

引率指導教員: アンソニー・ラウシュ(教育学部・教授)

参加学生:

教育学部 11名、理工学部 2名、農学生命科学部 2名、医学部保健学科1名、以上16名

【実施期間】

平成28年2月11日～平成28年3月7日

【事業概要とその成果】

本事業は、異文化での生活体験及び英語圏での英語学習により、異文化コミュニケーション能力並びに英語コミュニケーション能力の伸長を図ると共に、グローバル化が加速度的に進行する21世紀において、より豊かな社会の構築に貢献するための資質能力として、地域の課題をグローバルな視点でとらえるグローバルマインドの涵養を目的とするものである。

参加学生は、本学の海外協定校の一つである米国メイン大学との連携により、本学教育学部英語教育講座所属教員の引率のもと、3週間にわたって米国メイン州においてホームステイをしながら、同大学英語センターにおいて集中授業により英語コミュニケーション能力の伸長に努めた。また、受け入れ先大学の教員・学生並びにホストファミリーを始めとする受け入れ地域住民との意見交換や異文化交流活動並びに学生個人で取り組む調査研究活動等を通して、各自が個別に学習課題として設定した今日的な地域課題に対するグローバルな視点からのアプローチについて実践的に学んだ。具体的には、研究テーマの設定及び研究方法について、事前に事業担当指導教員が参加学生に対して指導を行い、研修中は、引率担当教員並びにメイン大学英語センター教員が全体指導並びに個別指導を行った。参加者が設定した主な学習課題としては、「少年法について考える」、「青森県とメイン州における特別支援教育の比較」、「日米間で遺伝子組み換え作物に対する認識はどのように異なるか」、「インターネット依存症の対策について考える」などがあつた。参加者は各自が設定した課題について、メイン大学の学生とのグループディスカッションや個別インタビュー、あるいは、ホストファミリーを始め地域住民からの聞き取り調査によるデータ収集・分析を通して、考察を行っていた。それを基に、メイン大学英語センターで教員、メイン大学学生、ホストファミリーを対象に英語によるプレゼンテーションを行い、その成果を発表した。

事業終了後、参加学生を対象に聞き取り調査を行った結果、異文化コミュニケーションの意義・重要性を実感すると共に、英語学習への意欲が高まったとの報告がなされた。さらに、本事業がねらいとしている「地域の課題をグローバルな視点でとらえるグローバルマインド」についても、参加学生の報告書から、その発達の跡が認められた。